クリスマスマーケットあれこれ

社会科・嶋田真美

クリスマスの起源　…キリストの誕生日に関する記録は残されておらず、いろいろな説があります

①12 月 25 日

・ローマ帝国の太陽神の復活のお祝い

…冬至から日が長くなっていくことから、太陽が力を取り戻すお祝いとして

・354 年の歳時記

…イエスは 12 月 25 日に生まれたと記される　(1 月 6 日公現祭…イエスの洗礼を記念)

②冬至祭

・北欧の民族(ゲルマン系)も行っていた冬至祭

…モミの木＝不死と再生の象徴

モミの枝の扉飾り＝魔除けと福招き(闇と寒さの冬→光の春へ)

→キリスト教を広めるために、各地のお祭りなどの文化を取り込んでいった

・Weihnachten(お供えの夜)＝豊穣の女神フレイヤに神獣の豚を生贄として供える日という説

クリスマスツリーの誕生

①1429 年　フライブルクのパン職人組合が市の施設にツリーを立てた

②1605 年　シュトラスブルク(ストラスブール)でリンゴやパン、金飾りで飾られたモミの木

→森林資源が豊富なアルザス地方ならでは！

クリスマスマーケットの誕生

①1384 年

ドイツ王ヴェンツェル 4 世はバウツェンの肉屋に対し、9 月 29 日からクリスマスまでの毎週日曜夕方、「自由肉市」の開催を許可

※中世において高価な肉を販売する肉屋は市の有力者だったため、そのツンフト（組合）が王侯に働きかけて自由肉市開催の特権を認めさせた？

②1434 年 10 月 19 日

ザクセン選帝侯フリードリヒ 2 世は、クリスマス前に 1 日だけ自由肉市の開催を許可

→徐々に販売されるものが増えていった

アドヴェント(advent)

中世ドイツにおいてアドヴェント(クリスマス前の 4 週間)は断食の期間に当たり、断食明けの休日に自由肉市を開いて肉（主にソーセージなどの加工された豚肉）を買う機会を市民に与えた

↑アドヴェントキャンドル
（1 週間ごとに 1 本灯す）

クリスマスマーケットの定番

・クリスマスピラミッド

ドイツのエルツ山地の民俗と文化に根付いた存在であるクリスマスピラミッドは、時代を下るにつれて世界中に普及した。クリスマスピラミッドの外枠はその名の通りピラミッド状をしており、ろうそく立てとしての役割を持つ。(Wikipadia より)

・木のおもちゃ

…山間部の農村からこの時期には街に出稼ぎに出ていたと思われる。

・焼きソーセージ(ニュルンベルガー)

写真：https://4travel.jp/travelogue/11444082

・クリスマスグッズ

↓お菓子のオーナメント

↓シュトレン

※その他ツリーやキャンドル、置物など様々

・グリューワイン　(アップルグリューワイン)

↓デポジット式のマグカップの場合が多い

様々なクリスマスマーケット

①ドレスデン

↓移動式遊園地が来たり

↓広場だけでなく街の至る所でマーケットが開かれる

↓いろいろな屋台

②ベルリン

↓ノルディックなクリスマスマーケットも

(人気が出て多数のマーケットが現れた結果、他との差別化が進んでいる？)

↓ジャンダルメン広場のマーケット(有料入場券が必要)

③ポーランド(ヴロツワフ)　※かつてドイツ領にあり、英語よりもドイツ語の方が通じる地域